

地方創生交付金関係事業の効果検証

【事業概要】

事業名	フィールドワーク等活性化事業	タイプ	第2世代交付金
		経費の種類	ソフト事業
事業計画期間	R7-R9年度	総事業費(R7採択時)	43,295千円
総合戦略	人を呼び込み、にぎわいと交流を生む魅力づくり	担当課	企画課、シティプロモーション課
目的	・大学生等によるフィールドワークを呼び込むことにより、若い世代の人口確保だけでなく、関係人口の増加やまちづくりをはじめとする様々な課題の解決を目指す。 ・市内でのフィールドワーク創出により、外部から大学生等を呼びこみ、知の集積を図る。		
概要	市内でのフィールドワーク費用の補助、地域政策課題に係る委託研究及びゼミや学生からフィールドワークの実践の場として選ばれるための普及啓発事業を行う。また、大学生と地域企業等がビジネスプランを策定する取組を支援し、交流促進の機運醸成を図る。		

【事業経費（R7）】

要素事業	主な事業内容	実績額(円)
フィールドワーク普及啓発事業	・モニターツアー実施 ・「フィールドワークのまち富士市」PR動画等の作成	7,201,266
フィールドワーク・研究活動推進事業	・フィールドワーク補助金 ・地域政策課題調査研究連携事業	4,745,823
学生によるビジネスプラン作成支援・機運醸成事業	・チャレンジプログラムの企画、運営 ・交流イベントの企画、運営	1,050,000
合計		12,997,089

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI		事業開始前	1年目 増加分	2年目 増加分	3年目 増加分	4年目 増加分	5年目 増加分	増加分の累計
若者人口〔人〕 ※年齢階級の移動による増減を補正して算出	計画		20.00	20.00	20.00	20.00		80.00
	実績	60,988.00	▲ 49.00					▲ 49.00
フィールドワークセンター利用人数 〔人〕	計画		100.00	100.00	150.00	150.00		500.00
	実績	239.00	313.00					313.00
フィールドワーク実施件数〔件〕	計画		15.00	15.00	20.00	20.00		70.00
	実績	12.00	12.00					12.00
アンケート調査で、本市で継続してフィールドワーク等を実施したいと回答した人の割合〔％〕	計画		5.00	5.00	10.00	10.00		30.00
	実績	50.00	33.30					33.30
ビジネスプランに取り組む若者の人数〔人〕	計画		8.00	8.00	8.00	8.00		32.00
	実績	0.00	9.00					9.00
	計画							0.00
	実績							0.00

【進捗状況、評価】

これまでの成果	モニターツアーの実施やPR動画の作成等により、ゼミや学生がフィールドワークの場として本市を選びやすくなるよう情報発信を行った。あわせて、フィールドワーク補助金等を通じて、市内でのフィールドワーク・研究活動の実施件数を着実に積み上げ、地域課題との連携を推進した。さらに、ビジネスプラン作成支援や市内企業との交流会を実施することで、本市のビジネス環境への関心を高めた。
KPIの達成状況を踏まえた評価	フィールドワークセンター利用人数およびフィールドワーク実施件数は計画を上回っており、多くの大学・学生との交流が生まれている。アンケートにおける継続意向の割合も高く、受入・継続につながる基盤が形成されつつある。あわせて、ビジネスプランに取り組む若者の人数も計画を上回っており、学生と地域との接点づくりが進んだ。一方、若者人口は計画に対しマイナスとなっているため、引き続き本事業等により関係人口の創出を図る必要がある。
今後の対応	関係人口の増加に向けて、PR・モニターツアー等による発信を継続し、フィールドワークの認知度向上を図る。あわせて、市内企業等の協力体制を強化し、取組の拡大を進める。さらに、大学等との連携により地域政策課題の調査研究を実施し、得られた成果を地域の課題解決につなげていく。

地方創生交付金関係事業の効果検証

【事業概要】

事業名	田子の浦港にぎわい創出事業	タイプ	第2世代交付金
		経費の種類	ソフト事業
事業計画期間	R7～R9年度	総事業費（R7採択時）	65,287千円
総合戦略	人を呼び込み、にぎわいと交流を生む魅力づくり	担当課	産業政策課
目的	・田子の浦港のにぎわい拠点が集中するプロムナードエリアで、行政や港湾関係者、民間団体とともに、イベント等を開催することにより、交流機会の創出と自立的で持続可能なにぎわい拠点の形成を目指す。 ・プロムナードエリアと鉄道駅間でシャトルバスの運行やレンタサイクルスポットを設置することにより、プロムナードエリアへのアクセス向上と市内経済への波及を目指す。		
概要	プロムナードエリアでイベント等を開催する民間団体等に対する補助や、エリアの活用推進のためイルミネーションを地元企業や民間団体等と協働で開催する。また、交通便利性向上のため、近隣鉄道駅からのシャトルバスの運行やレンタサイクルスポットを設置する。		

【事業経費（R7）】

要素事業	主な事業内容	実績額（円）
民間主体によるイベント創出	プロムナードエリアでイベントを開催する民間団体及び田子の浦港発着ツアーを開催する企業への補助金	1,569,000
田子の浦港プロムナードエリアの活用推進	イルミネーション設置・管理、広報啓発、交通整理に係る警備等	8,998,000
観光拠点における交通連携ネットワークの創出	シャトルバス運行、レンタサイクル運営、利用状況調査等	1,118,700
合計		11,685,700

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI		事業開始前	1年目 増加分	2年目 増加分	3年目 増加分	4年目 増加分	5年目 増加分	増加分の累計
プロムナードエリアのにぎわい創出事業（本事業）実施に伴う市内経済波及効果額	計画	0.00	89.00	95.00	74.00			258.00
	実績	857.00	362.00					362.00
プロムナードエリアのイベント等の出店店舗数	計画	33.00	7.00	10.00	10.00			27.00
	実績	33.00	73.00					73.00
プロムナードエリアの交流人口数	計画	300.00	30.00	30.00	30.00			90.00
	実績	300.00	128.00					128.00
シャトルバス・レンタサイクル等の利用者数	計画	900.00	1,100.00	2,000.00	2,000.00			5,100.00
	実績	900.00	▲ 131.00					▲ 131.00
	計画							0.00
	実績							0.00

【進捗状況、評価】

これまでの成果	田子の浦港プロムナードエリアにおいて、民間イベントの開催支援やイルミネーション等を実施するとともに、シャトルバス・レンタサイクルを運用し、来訪者の受入体制の充実を図った。これにより、にぎわい拠点の活性化と回遊の促進に取り組んだ。
KPIの達成状況を踏まえた評価	市内経済波及効果額、プロムナードエリアの出店店舗数、プロムナードエリアの交流人口はいずれも大幅に増加した。特に交流人口については、みなと公園の来場増や民間イベントによる年間を通じたにぎわいづくりの効果が大きい。一方、シャトルバス・レンタサイクル等の利用者数は、イベント時の天候の影響を受け、未達となった。
今後の対応	令和8年度は、開港60周年記念事業や外国客船の寄港、民間イベントとの共同開催等により、交流人口の増加を図る。あわせて、プロムナードエリアにおける出店店舗数の増加に向け、イベント告知の強化や出店者の利益向上・回遊性向上の取組を進め、自主財源の確保も支援する。シャトルバス・レンタサイクル等については、発着場所の見直し（新富士駅・富士駅）と事前の広報啓発を充実させ、利用者増を目指す。

地方創生交付金関係事業の効果検証

【事業概要】

事業名	富士市版スタートアップ・エコシステム形成事業	タイプ	第2世代交付金
		経費の種類	ソフト事業
事業計画期間	R7-R9年度	総事業費（R7採択時）	69,647千円
総合戦略	活力ある産業を集積し、やりがいを感じるしごとづくり	担当課	産業支援課
目的	・イノベーションの創出を先導する富士市版スタートアップ・エコシステムを形成し、産学官金等の連携を推進することで、企業の付加価値向上や競争力強化を図る。 ・若者の就労や外部人材・企業との共創を促進し、DX等のスキルを持つ人材の育成・確保を目指す。		
概要	市内外で富士市の産業や地域課題等を周知し、市内で活動するスタートアップの事業化・成長まで専門家のもと伴走支援するとともに、スタートアップと産官学金の支援者等が交流する場を設ける。また、こども向けにアントレプレナーシップ教育イベントを実施する。		

【事業経費（R7）】

要素事業	主な事業内容	実績額(円)
コミュニティ形成支援	交流会の運営・広報	200,000
アクセラレーションプログラムによる伴走支援	伴走支援事業の実施	12,265,000
市外スタートアップの呼び込み	地域課題解決型ワークショップの開催	1,445,400
合計		13,910,400

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI		事業開始前	1年目 増加分	2年目 増加分	3年目 増加分	4年目 増加分	5年目 増加分	増加分の累計
事業を通じて増加した地域の新規雇用者数〔人〕	計画		2.00	3.00	3.00			8.00
	実績	0.00	0.00					0.00
富士市版スタートアップ・エコシステム参加者数〔者〕	計画		15.00	15.00	15.00			45.00
	実績	0.00	26.00					26.00
市内で活動するスタートアップ数（市外からの誘致、起業等による新規活動）〔件〕	計画		7.00	7.00	7.00			21.00
	実績	3.00	4.00					4.00
新たに起業・創業を目指す人や新たな価値創出に関心を持つ人の数〔人〕	計画		50.00	125.00	145.00			320.00
	実績	0.00	56.00					56.00
	計画							
	実績							

【進捗状況、評価】

これまでの成果	令和7年度にスタートアップ支援パッケージ「F-start」を策定し、スタートアップへの支援を開始した。交流会では32名が参加し、関係者間のネットワーク形成と機運醸成が図られた。また、アクセラレーションプログラムでは32社から選定した5社に対し、事業の磨き上げや実証、伴走支援を行い、成長可能性の高い事業者の育成につながった。さらに、課題解決ワークショップには24名が参加し、市内企業等との対話や協業の契機が生まれ、地域課題と事業機会を結び付ける土台が整備された。総じて、スタートアップ支援の基盤形成と地域内共創の促進に一定の成果が認められる。
KPIの達成状況を踏まえた評価	スタートアップを取り巻くコミュニティの形成については、各種取組を通じて関係者間の接点創出やネットワークの構築が進み、設定した目標を達成したと評価できる。 一方、未達成となったKPIは、新規雇用者数及び市内で活動するスタートアップ数である。その要因として、関連事業に参加したスタートアップの多くがシード期にあり、事業実施期間内においては、従業員の雇用や市内でのサービス展開に至るまでの事業成長を実現することが困難であったことが挙げられる。
今後の対応	新規雇用者数に関するKPIの達成に向け、アクセラレーションプログラムの対象をスタートアップのみに限定せず、市内既存企業による第二創業や新事業開発についても支援対象に含めることで、雇用拡大の段階まで成長が見込まれる支援先の裾野を広げる予定である。 また、引き続きスタートアップサポーターズの募集やイベント等を通じた参加者の確保に取り組み、市内企業とのマッチング機会の創出及び早期の共創体制の構築を促進することで、市内におけるスタートアップの活動定着及び増加につなげていく。

地方創生交付金関係事業の効果検証

【事業概要】

事業名	工場夜景を活用した観光プロモーション及び誘客事業	タイプ	第2世代交付金
		経費の種類	ソフト事業
事業計画期間	R7-R9年度	総事業費(R7採択時)	16,511千円
総合戦略	人を呼び込み、にぎわいと交流を生む魅力づくり	担当課	交流観光課
目的	・市制施行60周年となる令和8年度に全国工場夜景サミットの開催を誘致することで、本市の工場夜景をさらなる魅力ある観光コンテンツとして成熟させ、市内旅行消費額の増加を図る。 ・民間事業者等が主導する持続可能な事業スキームの構築を図るとともに、シビックプライドの醸成を目指す。		
概要	市民の工場夜景への機運の醸成を図りながら、市内外に向けて「富士山がある日本で唯一の工場夜景都市」である本市の魅力を再発信する。あわせて、本市への観光客を誘客することで地域経済の活性化を図ることを目的として、工場夜景を活用したプロモーション業務、各種誘客イベント、ガイド養成に関する事業を、工場夜景サミットの前後3か年に分けて効果的に実施していく。		

【事業経費（R7）】

要素事業	主な事業内容	実績額(円)
工場夜景包括プロモーション事業	キービジュアル・ロゴ等制作、映像制作、ウェブサイト制作	4,983,000
工場夜景見学・撮影ツアー事業	富士市工場夜景デジタルスタンプラリー実施、煙突ライトアップ、工場夜景撮影バスツアー実施	3,038,000
おもてなし人材育成事業	工場夜景ガイド養成講座開催	280,500
合計		8,301,500

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI		事業開始前	1年目 増加分	2年目 増加分	3年目 増加分	4年目 増加分	5年目 増加分	増加分の累計
富士市における宿泊・飲食サービスの売上額〔百万円〕	計画		1,042.00	1,073.00	1,105.00			3,220.00
	実績	34,744.00	10,229.00					10,229.00
工場夜景関連ツアーの催行回数〔回〕	計画		5.00	10.00	15.00			30.00
	実績	24.00	5.00					5.00
工場夜景事業への企業参画数〔件〕	計画		1.00	2.00	3.00			6.00
	実績	0.00	2.00					2.00
専用WEBサイトの月平均閲覧数〔回〕	計画		3,000.00	5,000.00	7,500.00			15,500.00
	実績	0.00	15,575.00					15,575.00
	計画							0.00
	実績							0.00

【進捗状況、評価】

これまでの成果	3か年となる事業の初年度となる令和7年度においては、本市だけが持つ工場夜景の魅力を内外に伝えていくため、市内の参画企業に協力いただき、プロモーション用の動画の撮影と併せ、光の源となる企業の情報を発信していくための専用ウェブサイトを構築した。煙突のライトアップや撮影ツアーも企業側と連携して実施し、インパクトのある取組として成功を収めた。ガイド育成についても、想定を超える受講生の聴講があり、今後につながる、基礎固めの一年となった。
KPIの達成状況を踏まえた評価	富士山と工場夜景がある唯一の自治体である本市の認知度は、令和7年度に実施したデジタルスタンプラリーの参加者（約800名）からのアンケート結果からも、以前は決して高いとは言えない状況であった。しかしながら、誘客や知名度アップに向けた産学官が連携した取組は多くの層に好評な評価を得られ、結果として、工場夜景をフックに本市を訪問する人は着実に増加しているといえる。宿泊客の平均宿泊日数の増加などにより、1人当たりの消費単価が大きく伸びている。
今後の対応	令和7年度に立ち上げた「富士工場夜景推進会議」を年数回開催しており、地域内外の参画者からの意見聴取を行い、施策に反映している。令和8年度においても、工場夜景サミット開催に向けた打ち合わせを複数回実施する予定としている。工場夜景観光を地域内外のプレイヤーが自分事として捉え、関わることでメリットのある取組であるという成功体験を積み重ねていく。

地方創生交付金関係事業の効果検証

【事業概要】

事業名	人が集まり、地域が繋がる自転車活用事業	タイプ	第2世代交付金
		経費の種類	ソフト事業
事業計画期間	R3-R7年度	総事業費（R7採択時）	83,917千円
総合戦略	人を呼び込み、にぎわいと交流を生む魅力づくり	担当課	交流観光課
目的	自転車による富士山の風景を楽しみながら移動できる体制の構築、プロサイクリングチームと連携した当市の特色を生かした誘客を進めるとともに、市民に対して自転車活用を推進することで、市外からの来訪者と市民が交流し、地域における様々なイベントや体験活動を通じて、人が集まり、地域で繋がりが、地域経済にも寄与するまちづくりを目指す。		
概要	レンタサイクル事業の運営や安全で楽しめる観光ルートの設定、サイクルステーションを拠点としたサイクリストが集まる環境整備、サイクルツーリズムの推進など立ち寄り場所などの情報発信を行う。また、プロレースの開催、サイクルスポーツの体験など、様々なイベントを実施する。		

【事業経費（R7）】

要素事業	主な事業内容	実績額(円)
自転車活用による交通利便性の向上	レンタサイクル運営	1,753,000
滞留型観光事業の創出	サイクルツーリズム推進事業、サイクルステーション運営費用	7,986,000
サイクルスポーツを通じた認知度の向上	プロカテゴリーレースの開催負担金	5,000,000
合計		14,739,000

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI		事業開始前	1年目 増加分	2年目 増加分	3年目 増加分	4年目 増加分	5年目 増加分	増加分の累計
レンタサイクルを使って観光施設に訪問した人数【人】	計画		433.00	701.00	104.00	114.00	124.00	1,476.00
	実績	0.00	340.00	220.00	229.00	63.00	243.00	1,095.00
当該年度における経済波及効果【千円】	計画		98,000.00	9,000.00	10,000.00	11,000.00	12,000.00	140,000.00
	実績	0.00	252,000.00	127,000.00	▲ 81,000.00	1,000.00	▲ 110,000.00	189,000.00
サイクリスト立ち寄り拠点整備事業所数【件】	計画		20.00	50.00	50.00	25.00	25.00	170.00
	実績	0.00	19.00	14.00	27.00	27.00	2.00	89.00
自転車レース開催月におけるRESAS滞在人口の地域外人口の数【人】	計画		500.00	600.00	700.00	800.00	900.00	3,500.00
	実績	0.00	1,532.00	1,455.00	-	-	-	2,987.00
	計画							0.00
	実績							0.00

【進捗状況、評価】

これまでの成果	サイクルスポーツ振興においては、毎年3月に開催している「富士山サイクルロードレース」において、多くの選手・観客を迎え開催しており、経済効果が得られている。 サイクルツーリズム推進においても、市内でサイクリストを多く見受けられるようになっており、サイクルツーリズムの推進につながっていると考えられる。
KPIの達成状況を踏まえた評価	KPIについては、コロナ禍での事業開始となったことから、思うように数値が伸びていない項目がある一方で、サイクルツーリズム推進などにおいては、当初の予想を上回る成果も見られた。全体としては、おおむね当初想定を上回る指標が多く、KPIに基づく評価としては一定程度良好である。 ※「自転車レース開催月におけるRESAS滞在人口の地域外人口の数」については、地域経済分析システムRESASのリニューアルにより、数値が計測できなくなったため未記入
今後の対応	現在進めているサイクルスポーツ振興及びサイクルツーリズム推進について、市の事業として継続して実施していく。特に、プロ自転車チームや選手との交流は本市の特色であることから、サイクルスポーツ振興及びサイクルツーリズム推進の両事業に活用し、さらなる活性化を図っていく。

地方創生交付金関係事業の効果検証

【事業概要】

事業名	公共交通で、観光、生活、教育・研究を多面的に支え、充実させる地域活性化事業	タイプ	第2世代交付金
		経費の種類	ソフト事業
事業計画期間	R7-R9年度	総事業費（R7採択時）	371,134千円
総合戦略	地域と拠点がつながり、快適に暮らせる環境づくり	担当課	都市計画課
目的	大規模投資事業を展開する新富士駅・富士駅間において、自動運転技術を活用した新たな公共交通サービス（自動運転バス）の導入により、深刻なバス運転士不足に対応しつつ両駅連携強化を図り、富士山観光を目的としたインバウンド観光客、フィールドワークを本市で行う首都圏大学人材などの移動を効率化し、交流・関係人口創出を図る。加えて、バス路線廃止による交通空白が懸念される富士川西岸地域にて、次世代を担う若者等とともに在り方を検討しながら代替交通を運行し、同地域にある本市最大の観光誘客施設や良好な富士山眺望が可能な拠点と「新富士駅」・「富士駅」・「富士川駅」の公共交通ネットワークを強化することで、観光、生活、教育・研究等多方面から地方創生を推進する。		
概要	・新富士駅・富士駅間において、令和9年度のレベル4自動運転バスの社会実装を目指した実証運行を行う。 ・富士川西岸地域等のバス路線を実証運行し、実装（本格運行）に向けた最適な運行内容・経路を検証するとともに、沿線地域や若者と利用促進策に取り組む。		

【事業経費（R7）】

要素事業	主な事業内容	実績額（円）
新富士駅・富士駅間自動運転バス社会実装推進事業	自動運転バス公道実証運行	55,739,200
交通空白解消路線バス実証運行事業	対象地区における路線バス実証運行	17,832,923
合計		73,572,123

【重要業績評価指標（KPI）】

KPI		事業開始前	1年目 増加分	2年目 増加分	3年目 増加分	4年目 増加分	5年目 増加分	増加分の累計
富士市における宿泊・飲食サービスの売上額【円】	計画		1,042.00	1,073.00	1,105.00			3,220.00
	実績	34,744.00	集計中					0.00
新富士・富士駅間の自動運転バス及び富士川周辺地域運行バス路線の乗降者数【人】	計画		800.00	1,700.00	2,200.00			4,700.00
	実績	84,570.00	1,031.00					1,031.00
フィールドワーク実施人数【人】	計画		100.00	100.00	150.00			350.00
	実績	150.00	265.00					265.00
利用促進ワークショップ参加者数・発表会来場者数【人】	計画		0.00	230.00	0.00			230.00
	実績	0.00	0.00					0.00
	計画							0.00
	実績							0.00

【進捗状況、評価】

これまでの成果	令和7年12月末に交通事業者の都合により極めて短期間で路線バスが廃止されたが、その代替として、令和8年1月から富士川かりがね橋を渡り、富士川・松野地区と岩松地区等を繋ぐルートを走る市による代替バスの実証運行を開始し、地域住民の暮らしの足ならびに来街者の移動手段として運行している。また、新幹線新富士駅と在来線富士駅は鉄道で接続していないことから、両駅の接続強化を図るとともに、両駅で進むまちづくりの事業効果を高めることなどを目的として、令和7年度に自動運転バスの実証運行を実施し、前回は上回る利用があった。
KPIの達成状況を踏まえた評価	富士川西岸における移動の足を確保できていることや、新富士駅・富士駅間の接続強化を見据えた自動運転バスの実証運行などを実施したことにより、公共交通により生活、教育、研究等を多面的に支える地域活性化事業として、バス利用者数やフィールドワーク実施人数が増加するなど、一定の成果があったものと評価できる。
今後の対応	土地区画整理や再開発など大規模投資事業を展開する新富士駅・富士駅間において、自動運転技術を活用した新たな公共交通サービス（自動運転バス）の導入を進め、深刻な運転士不足に対応しつつ両駅連携強化を図る。また、富士川西岸地域においては、代替バスの実証運行を行いながら、次世代を担う若者等とともにその在り方を検討するワークショップを実施し、利用状況や地区住民の意見・意向を踏まえて運行内容を見直すことで、富士山観光を目的としたインバウンド観光客や、フィールドワークを本市で行う首都圏大学の人材等の移動を効率化し、交流・関係人口創出を図ることで、観光、生活、教育・研究等多方面から地方創生を推進していく。